

令和8年度 昭和村教育委員会の点検及び評価報告書 (対象期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和8年8月 昭和村教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、令和7年度の昭和村教育委員会の活動状況及び重点施策について、このほど点検及び評価を行いましたのでその結果を報告いたします。

1 実施の方法

(1) 評価シートの作成

ア 評価の対象事業

評価の対象とする事業は、昭和村教育振興基本計画の重点施策とします。

イ 事業の（自己）評価

教育委員会事務局で次の4段階に評価します。

- A 十分成果が上がっている
- B 成果が上がっている
- C 改善の余地が多い
- D 抜本的な見直しが必要

上記の結果を踏まえ、今後どのように事業を進めるかを決めます。

- ☐ さらに重点化する
- ☐ 継続実施する
- ☐ 改善見直しを検討する
- ☐ 休止、廃止を検討する

(2) 教育行政評価委員の意見、助言

教育行政評価委員会議を開催し、教育委員会事務局が自己評価した事務事業について意見や助言を受けることで、評価の客観性や精度を高めます。

◎ 教育行政評価委員（任期：令和7年7月1日～令和8年3月31日）

- 舟木 峻 （昭和村保育所保護者会長）
- 菅家 祐博 （昭和小学校PTA会長）
- 齋藤 宏典 （昭和中学校PTA会長）
- 羽染 恵美子 （元社会教育委員長、元社教指導員）
- 舟木 秋広 （下中津川区長、元教育委員）

◎ 会議の開催日 令和8年8月26日（出席：2人、欠席：3人）

第1 教育委員会の活動状況

- 1 会議の開催状況 定例会 12回
 臨時会 2回

(1) 議案の審議

月日	番号	議 案 名
4月3日	7	昭和村学校教育指導委員の委嘱について
	8	昭和村教育支援委員の委嘱について
	9	学校教育施設および社会教育施設の訪問計画について
5月1日	10	昭和村学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
	11	昭和村いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	12	教育行政評価委員の委嘱について
(臨) 5月21日	13	教育長職務代理者の指名について
6月5日	14	就学援助費支給認定について
	15	令和7年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について
7月3日	16	昭和村学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
(臨) 7月23日	17	令和8年度昭和村立学校使用教科書等の採択について
8月7日	18	昭和村教育委員の任命について
9月4日	19	令和7年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について
	20	昭和村いじめ防止基本方針の改定について
10月2日		議案なし
11月6日	21	第1回昭和村総合教育会議の議事内容の確認について
12月4日	22	奨学生選考委員会委員の委嘱について
	23	昭和村いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
	24	令和7年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について
令和8年 1月8日	1	令和8年度昭和村一般会計予算要求(教育委員会関係)について
2月2日	2	令和8年度昭和村一般会計当初予算について

3月5日	3	令和7年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について
	4	昭和村教育振興基本計画について
	5	昭和村の学校部活動の在り方に関する方針について
	6	昭和村中学校部活動指導員設置要綱について

※備考：10月2日の定例会では議案の提出はありませんでした。

(2) 報告事項

月日	件 名
4月3日	1 令和7年度教育課程編成届について 2 令和7年度昭和村立学校の校務分掌について 3 令和7年度昭和村教育委員会事務局事務分掌について 4 令和7年度昭和村社会教育及び社会体育事業計画について
5月1日	1 令和6年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について 2 令和7年度昭和村一般会計(教育委員会関係)補正予算について 3 昭和村教育振興基本計画の進捗状況について 4 スクール・サポート・スタッフの配置について 5 昭和村教育委員会教育長の任命について
6月5日	1 昭和村拠点施設整備検討委員会の設置について 2 令和7年度第2回昭和村議会定例会の一般質問通告内容について
7月3日	1 昭和村立学校の講師配置について 2 令和7年度昭和村成人式の実施について
8月7日	1 昭和村教育委員会の点検及び評価報告書について 2 昭和村教員宿舎個別施設計画の改訂について
9月4日	1 昭和村教員宿舎外構工事について 2 昭和村拠点施設整備検討委員会について 3 令和7年度第3回昭和村議会定例会の一般質問通告内容について
10月2日	1 令和6年度昭和村一般会計(教育委員会関係)決算について
11月6日	1 ツキノワグマによる児童生徒への被害防止対策について
12月4日	1 令和7年第4回昭和村議会定例会の一般質問通告内容について

令和8年	
1月8日	1 令和8年度昭和村立学校入学予定者について
2月2日	1 令和7年度学校給食における地場産物の活用状況調査結果について
3月5日	1 教職員異動の内申について 2 令和8年第1回昭和村議会定例会の一般質問通告内容について

2 学校及び社会教育施設の訪問状況

施設名	訪問日	訪問内容
昭和村立昭和小学校	6月5日	授業参観、学校経営について意見交換
昭和村立昭和中学校	7月3日	授業参観、学校経営について意見交換
昭和村公民館	毎月1回	事務事業の実施状況
昭和村学校給食センター	9月4日	運営、施設管理状況
昭和村小野川生涯学習センター	8月7日	施設の活用状況と民具の整理状況

3 研修会参加状況（単位：回）

	全国	東北	県	会津	両沼	村
教 育 長	1	1	2	3	2	
教育委員			4	3	2	

4 教育委員会の体制（令和8年3月31日現在）

教 育 長	長 沼 敬 貴	就任：令和 7年 5月21日
教育委員 (4名)	五十嵐 麻裕子 ※ 職務代理者	就任：平成29年10月 1日
	小 林 さや香	就任：令和 6年 4月 1日
	涌 井 一 統	就任：令和 6年10月 1日
	五十嵐 美智保	就任：令和 6年11月17日

事務局（（兼）昭和村公民館）

教育次長(兼)公民館長(兼)学校給食センター所長	栗 城 進 也
教育係長(兼)学校給食センター給食係長	鵜 川 洸 一
主 査	五十嵐 正 富
主 査(兼)主任運転手	束 原 源 世
主 事	菅 家 良 太
社会教育指導員(会計年度任用職員)	鈴 木 千江美

教育行政評価委員の意見、助言	引き続き、教育委員の活発な活動を期待したい。
----------------	------------------------

第2 昭和村教育委員会の重点施策

昭和村教育振興基本計画（令和5年度～令和7年度）より抜粋

1 学校教育

- ① 教育支援、教職員の確保と資質能力の向上
- ② 小中連携教育、小中一貫教育の推進
- ③ 豊かな人間性を育む教育
- ④ 特色ある教育活動の推進
- ⑤ 教育環境の整備充実
- ⑥ 心地よく子どもを育てられる環境づくり
- ⑦ 安全、安心な学校給食の充実

2 社会教育

- ① 小学校や保健福祉課、老人クラブ等と連携し、好奇心と実体験を大切に楽しく学べる機会を創出し、子どもの育成を図るため少年教室を企画運営する。
- ② 生涯学習講座、千歳学級を開催し、村民の学習ニーズに沿った講座等を開催することにより積極的な学習を促す。
- ③ 昭和村民文化祭を開催し、作品展や芸能発表など練習してきた成果を発表する場を設ける。芸術鑑賞会では、演劇と音楽の公演を隔年で開催し、芸術文化に触れる機会を設ける。
- ④ 昭和村文化協会加盟団体には、広域的な文化芸術祭である「会津西部総合演芸大会」や「会津西部巡回美術展」等への参加も促し、団体が積極的に活動できるよう支援する。
- ⑤ 村民が読書に親しみ、書物を通して多様な学びができるよう、図書室の蔵書の充実を図り、併せて電子図書館サービスの導入を図り、読書の普及と推進に努める。

3 生涯スポーツ

- ① スポーツ推進委員と協力し、昭和村総合運動会をはじめとする各種スポーツ大会や、福島県地域スポーツ大会、市町村対抗野球大会、市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会等への村民の参加を促すとともに、日頃からスポーツに親しむ機会を創出す

る。

- ② 昭和村運動広場（グラウンド、テニスコート等）の管理・運営と安全確保に努め、利用の促進を図る。

4 歴史・文化

- ① 昭和村文化財保護審議委員会の活動の充実を図り、村指定文化財の巡視、点検の他、新たな指定に関する検討及び村内の文化財や遺跡等の調査と保護を行う。
- ② 国指定天然記念物「駒止湿原」は、南会津町及び駒止湿原保護協議会並びに駒止湿原案内の会と連携し、管理と整備を行いながら保護と活用を図る。
- ③ 福島大学等の動植物及び生態系を研究している専門家と連携し、村天然記念物で県自然環境保全地域「矢ノ原湿原」の調査や保護を行う。
- ④ 大学等と連携し、昭和村小野川生涯学習センターに保管してある民具の整理、保存及び活用を検討する。

5 国際理解

- ① ALTの配置
- ② ブリティッシュヒルズ英語研修の実施
- ③ 生涯学習「英会話教室」開催

6 重点施策の事業評価

- ・ 重点施策の事業評価シートのとおり。（次のページから）

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-①

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	① 教育支援・教職員の確保と資質能力の向上		
事業の目的	☐ 複式学級の実質的解消と特別支援学級の創設を含めた特別支援教育の充実を図る。 ☐ 子どもの人生に良い影響を与えられる優れた教職員の確保に努める。 ☐ 全教職員と一緒に研修を深め、資質向上を図る。 ☐ 幼少期から英語学習に主体的に取り組み、多様な価値観を受入れて豊かに自己表現できる、世界に通用する国際人を育てる。		
事業の計画、内容	☐ 昭和小学校に3人の複式支援講師（会計年度任用職員）を配置する。 ☐ 特別な支援が必要な児童に対する施策の充実を図る。 ☐ 昭和村学力向上推進体制による小中連携や小中学校授業研究会を開催し、教職員の資質向上を図る。 ☐ 外国語指導助手（ALT）による英語教育の充実を図る。		
事業の対象者	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒と教職員		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	16,975 千円	18,816 千円	☐ 会計年度任用職員とALTのPersonnel費 ☐ 特別支援学級用教室の改修費
実績・成果 (数値等)	☒ 複式支援講師は前年度からの継続3名を雇用し、児童の学習支援が図られた。 ☒ 令和6年度に、昭和小学校に特別支援学級(情緒障がい学級)が開設され、令和7年度も支援が必要な児童の教育環境を整えることができた。 ☒ 学力向上のための小中学校授業研究会や学力向上に関する事業が開催され、教職員の資質向上を図るとともに児童生徒の学力向上にもつながった。 ☒ 外国語指導助手は1人を雇用して授業の支援を行い、英語力向上が図られた。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
A （ 十分成果が上がっている ）			
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

引き続き村独自の講師配置を継続してください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-②

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	② 小中連携教育・小中一貫教育の推進		
事業の目的	☐ 中学校の専門教員による小学校への乗り入れ授業をはじめ、小中合同の文化祭を開催。 ☐ 小中一貫教育として実績のある学校への視察研修を行い、村ならではの教育を議題とした話し合いを行い、教職員及び保護者を含めた村民の意識の向上を図り、小中一貫教育への相互理解を深め、より一層の推進を図る。		
事業の計画、内容	☐ 中学校の専門教員による小学校への乗り入れ授業を実施する。 ☐ 小中連携教育の推進のため、小中合同の文化祭を開催する。 ☐ 保育所・小学校・中学校・学校給食センターが一体となった新たな教育施設建設に向けた基本構想、基本計画の策定に着手する。		
事業の対象者	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒と教職員		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	0 千円	0 千円	特になし
実績・成果 (数値等)	☒ 中学校の教員による小学校への乗入れ授業は、国語・英語・数学・理科で行っており、その効果は学力テストの結果に表れている。 ☒ 小中合同の文化祭は11月1日に開催し、村民へ小中連携の取り組みの成果を発表することができた。 ☒ 令和7年度も小中連携推進事業として小、中学校自由参観ウィークを夏と秋に開催し、児童生徒の様子や、授業の様子を広く村民に理解してもらう良い機会となった。 ☒ 新たな教育施設整備に向けて、昭和村拠点施設整備検討委員会内に教育施設部会を設置し、具体的な検討を開始した。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
事業の方向性	☒ 達成できている(5) ☒ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	B （ 成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

引き続き学力向上に向け継続して取り組んでください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-③

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	③ 豊かな人間性を育む教育		
事業の目的	○ 自ら学び自ら考える力を獲得させることにより、「確かな学力を身に付け、自己実現を図ることができる児童生徒」を育成する。 ○ 少人数教育の利点を生かし、一人一人の個性や適性に応じた指導を工夫することにより、より良い社会生活を営むことができるよう人間性の向上に努める。 ○ オンライン等を活用しながら、合同郷土学習や、他校との交流学习を積極的に推進する。		
事業の計画、内容	○ ICT機器（児童生徒1人1台タブレット、電子黒板など）を効果的に活用し、個別最適化された教育の充実を図る。 ○ ICT教育を効率的かつ効果的に活用できるよう、小、中学校に定期的に支援員を派遣して学校教育現場の支援を行う。		
事業の対象者	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒と教職員		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	5,159 千円	4,779 千円	デジタル機器の維持管理費 ICT支援員の業務委託料
実績・成果 (数値等)	◎ 各教科毎にタブレット端末と電子黒板、デジタル教科書を組み合わせた授業や、学習支援ソフト（タブレットドリル、すらら、学びポケット）を活用して家庭学習などを行った。また、児童や生徒自らも学級活動や児童会、生徒会活動などに積極的に活用している。 ◎ ICT支援員は小学校、中学校合わせて年間89回学校へ出向き、システムや端末機器の使用方法及び活用のサポートを行って、円滑な授業の実施につながった。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
事業の方向性	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

今後のデジタル化社会に備え、ICT教育を引き続き充実してほしい。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-④

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	④ 特色ある教育活動の推進		
事業の目的	○ 昭和村の豊かな自然に親しみ、体験を通して学習意欲のもととなる好奇心を伸ばし、郷土の自然を守る心を養う。 ○ 昭和村の特色ある産業（米や野菜、カスミソウ栽培等の農業、からむし織等の伝統産業）とその流通等について学び、郷土愛と誇りを持ち、村の将来の在り方についても考えることのできる人財を育てる。		
事業の計画、内容	○ 小学校と中学校それぞれで総合的な学習の時間に以下の学習を計画した。 ・ 小学校 稲作栽培、苧麻育（からむし）、郷土学習（伝統文化、伝統食）、自然教室 ・ 中学校 花育（カスミソウ）、苧麻育、郷土学習（伝統芸能、伝統食）、森林学習		
事業の対象者	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	419 千円	400 千円	講師に係る謝礼等
実績・成果 (数値等)	◎ 花育は、令和7年度も村産業係や花き振興協議会の指導で、本村農業の主力作物である宿根カスミソウについて、新規就農の状況や栽培から小売りまでの一連の体系について理解を深めることができた。 ◎ 令和7年度も、からむし生産技術保存協会の指導で、村の伝統産業であるからむしについての学習機会を設けて、系統的な学習に取り組んだ。 ◎ 郷土学習では小学校は村内で過去に発生した災害の歴史などを学び、中学校では伝統食である「凍み餅」作りをおこない、郷土の理解を深めることができた。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) おおむね必要である(3) あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) おおむね寄与している(3) あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) おおむねできている(3) できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) おおむね達成できている(3) 達成できていない(1)		
A （ 十分成果が上がっている ）			
事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 継続実施する	☐ 改善見直しを検討する
	☐ 休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

素晴らしい取り組みなので、引き続き継続してください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-⑤

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	⑤ 教育環境の整備充実		
事業の目的	○ 学校事故の未然防止に努め、万が一事故が起こった場合に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。 ○ 通学時の安全対策、自然災害時の危機管理教育を充実させる。 ○ いじめの未然防止に努め、不登校児に対しては、家庭訪問やオンライン学習等を通して生活・学習面の支援をしながら、復帰に向けての望ましい環境づくりに努める。 ○ 感染症に対する正しい理解をもとに、保健衛生環境の整備に努める。 ○ 教職員が安心して居住できる教員宿舎の維持管理に努めるとともに、新しい宿舎建設にも着手する。 ○ 学校施設の老朽化に伴う修繕、改修を計画的に行うとともに、小中一貫校開設に伴う学校新築の検討を進めていく。		
事業の内容	○ いじめの防止等に関係する機関及び団体の連絡調整を図る場として、昭和村いじめ問題対策連絡協議会を開催する。 ○ 教員宿舎外構工事は、年度内で整備が完了するよう、早期着工に努める。 ○ 保育所・小学校・中学校・学校給食センターが一体となった新たな教育施設建設に向けた基本構想、基本計画の策定に着手する。		
事業費	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒と教職員		
事業費	令和7年度決算	前年度決算額	事業費の主な内容
	31,946 千円	142,230 千円	いじめ問題対策連絡協議会委員報酬、工事請負費等
実績・成果(数値等)	◎ 昭和村いじめ問題対策連絡協議会を開催し、関係機関相互の連絡調整を図った。その後、小学校でいじめを1件確認したが、早期対応で解決した。 ◎ 教員宿舎外構工事は、まず、設計業務を令和7年5月に発注し、8月上旬に完了した。その後、外構工事を令和7年9月に発注し、令和8年2月下旬に完了した。 ◎ 新たな教育施設整備に向けて、昭和村拠点施設整備検討委員会内に教育施設部会を設置し、具体的な検討を開始した。		
事業の(自己)評価	必要性(住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。)		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性(施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性(最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。)		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
事業の方向性	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
A (十分成果が上がっている)			
事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 継続実施する	☐ 改善見直しを検討する
	☐ 休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

引き続き、教職員の住環境整備に努めてください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-⑥

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	⑥ 心地よく子どもを育てられる環境づくり		
事業の目的	☐ 保健連絡会を活用し、障がいのある子どもの早期の把握に努めるとともに、個に応じたよりよい特別支援の在り方を検討する。 ☐ 特別支援学級の対象になり得る児童が在籍していることから、引き続き特別支援学級の創設ができるように会津教育事務所と協議をしていく。 ☐ 放課後児童クラブに活動場所を提供し、児童の安全安心な環境の整備に努める。		
事業の計画、内容	☐ 学校長、養護教諭、行政の保健事業部門、保育所、教育委員会で組織する保健連絡会で幼児期から子どもの特性に応じた支援を検討する。 ☐ 特別な支援が必要な児童に対する施策の充実を図る。 ☐ 放課後児童クラブの活動の場の提供と、社会教育分野との事業の連携も図る。		
事業の対象者	昭和小学校の児童とその保護者		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	0 千円	1,058 千円	・特別支援学級用教室改修費
実績・成果 (数値等)	☒ 保健連絡会は、保育所と小学校に出向いて乳幼児と児童の普段の様子を確認し、スムーズな就学につなげることができた。 ☒ 令和7年度も引き続き昭和小学校に特別支援学級(情緒障がい学級)が開設され、支援が必要な児童に対する教育環境を提供することができた。 ☒ 社会教育分野との連携では、放課後児童クラブと少年教室で4講座を共催して行うことができた。		
事業の (自己) 評価	必要性(住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。)		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性(施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性(最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。)		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A (十分成果が上がっている)		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.1-⑦

基本計画名	1 学校教育		
重点施策名	⑦ 安全・安心な学校給食の充実		
事業の目的	☐ 地場産の食材を活用し安全安心な学校給食を提供する。 ☐ 栄養技師等を活用した食育指導の充実を図る。 ☐ 農業体験を通し、食への関心を促す。		
事業の計画、内容	☐ 週5回の米飯給食（麦ごはん）を実施する。なお、月1回程度は児童生徒から希望の多い麺やパンの給食も実施する。 ☐ 県産品等の地場産物の活用や旬の食材を中心とした献立とし、郷土料理や行事食、お楽しみ献立も実施する。 ☐ なるべく既製品は使わず手作りの給食を提供する。 ☐ 小学校では総合的な学習の時間に、代かきから稲刈り、脱穀までの稲作体験を行う。 ☒ 令和7年度より食物アレルギーの児童生徒が持参する弁当の経済的負担軽減対策として「昭和村学校給食弁当代替者対応助成金」の交付を行う。		
事業の対象者	昭和小学校及び昭和中学校の児童生徒		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	17,890 千円	16,026 千円	学校給食センター運営費 昭和村学校給食弁当代替者対応助成金
実績・成果 (数値等)	☒ 令和7年度の地元産物の使用割合は、県内産が45.7%（前年度比4.2ポイント増） 村内産は12.9%（前年度比1.4ポイント増）だった。 ☒ 令和6年度から児童生徒の学校給食費を無償とした。 ☒ 食物アレルギー児童の対策として、令和7年2月から麦を抜いた白米ご飯に変更した。 ☒ 小学校の稲作体験は、農家の指導を受けながら代かき、田植え、稲刈り、脱穀の体験を行い、最後は保護者や指導農家と一緒に収穫祭を開催した。 ☒ 今年度、「昭和村学校給食弁当代替者対応助成金」制度を設け、該当する家庭に対して助成金を支給した。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	20		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.2-①

基本計画名	2 社会教育		
重点施策名	① 少年教室の企画運営		
事業の目的	小学校や保健福祉課、老人クラブ等と連携し、好奇心と実体験を大切に楽しく学べる機会を創出し、子どもの育成を図る。		
事業の計画、内容	☐ 社会教育指導員が主体となって活動計画を以下のとおり企画し、実行する。 ・ 地域の文化や自然、行事体験（陶芸教室、星空観察、スキー教室） ・ 親子での活動（料理教室、自然体験） ・ 近隣町村との交流（山っ子スクール） ・ 世代間の交流（ニュースポーツ交流会） ・ 村外での体験活動（会津自然の家など）		
事業の対象者	昭和小学校児童及びその保護者		
事業費	令和7年度決算額 4,517 千円	前年度決算額 4,282 千円	事業費の主な内容 社会教育指導員の人件費（報酬、手当、共済費）
実績・成果 （数値等）	☒ 保育所や放課後児童クラブ、老人クラブと連携したプログラムを開催し、異世代交流も図ることができた。 ☒ 教室は全15回開催し毎回平均15人程の参加者があり、その活動内容は村内での活動にとどまらず近隣町村の児童との交流や、村外にも活動の場を広げるなど、学校教育とは違う貴重な体験を行うことができた。		
事業の（自己）評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)			
A （ 十分成果が上がっている ）			
事業の方向性	さらに重点化する 休止、廃止を検討する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.2-②

基本計画名	2 社会教育		
重点施策名	② 生涯学習講座と千歳学級の開催		
事業の目的	村民の学習ニーズに沿った講座等を開催することにより村民の積極的な学習を促すとともに、様々な方面にわたる知識を深め、多様な趣味や生きがいづくりを推進する。		
事業の計画、内容	○ 生涯学習講座 ・ 英会話教室（全11回） ・ 矢ノ原湿原勉強会（全2回） ・ 昭和学講座（全6回） ・ 刃物研ぎ教室、苔テラリウム教室、陶芸教室、アクセサリー教室、蕎麦打ち教室、麴の教室、しめ飾り作り教室	○ 千歳学級（高齢者学級） ・ 芸術・美術等鑑賞会（全3回） ・ 健康教室（全2回） ・ 村外研修（2回） ・ 奏筆教室 ・ スマホ教室 ・ ニューススポーツ大会 ・ 交通安全教室	
事業の対象者	全村民及び高齢者		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	5,663 千円	2,741 千円	報償費（講座の講師謝礼）、床張替工事費
実績・成果（数値等）	◎ 生涯学習講座は各回とも10名以上の参加者があり、新しい知識や趣味開拓だけでなく、受講生同士の交流の場にもなった。 ◎ 千歳学級は対象者のニーズが高いテーマの講座を開催するとともに、県内で開催される様々な企画展やイベントの鑑賞会を中心に企画し、受講生同士が楽しみながら交流するとともに、生きがいづくりや趣味を広げることなどに寄与できた。 ◎ 社会教育事業の拠点施設である昭和村公民館は、築年数35年を経過し床材（カーペット）が著しく傷んでいたことから、2階部分のカーペット張替工事（総工費539万円）を行った。		
事業の（自己）評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	20		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価委員の意見、助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.2-③

基本計画名	2 社会教育		
重点施策名	③ 昭和村民文化祭と芸術鑑賞会の開催		
事業の目的	作品展や芸能発表など練習してきた成果を発表する場を設けるとともに、演劇と音楽の公演を開催し芸術文化に触れる機会を設け、村民の芸術文化振興を図る。		
事業の計画、内容	○ 11月を文化芸術月間として、様々な文化、芸術に関する催しを企画する。 ・ 小中学校文化祭 ・ 村民作品展と舞台発表会 ・ シネマ上映会 ・ 歴史・古文書講座「古文書ワークショップ」 ・ 昭和学講座特別講演会 ・ 会津西部総合演芸大会		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	739 千円	570 千円	報償費（文化祭、芸術文化鑑賞事業）など
実績・成果 （数値等）	◎ 小中学校文化祭と村民の作品展、舞台発表会は文化の日を中心に開催し、延べ300人を超える多くの村民で賑わった。特に小中学校文化祭は小中連携教育を村民に発表する場として効果があった。 ◎ シネマ上映会は近年話題となった2作品を上映し、50人以上の村民が来館した。当日は専用機材も配置し、映画館と同様の迫力ある作品鑑賞会となった。 ◎ 古文書ワークショップでは、古文書解読システムの体験会を企画し、15名の参加者があった。なかなか読解が難しい古文書をITの力を活用し、解読することで、古文書読解や地域の歴史を学ぶ良い機会となった。 ◎ 昭和学講座特別講演会では、矢ノ原湿原の保存管理にご協力いただいている福島大学黒沢高秀先生を講師にお招きし、講演いただいた。 ◎ 両沼管内4町村の演芸団体が参加した会津西部総合演芸大会を開催し、90名を超える来場があり、他町村の文化・芸術に触れる良い機会となった。		
事業の （自己） 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.2-④

基本計画名	2 社会教育		
重点施策名	④ 昭和村文化協会加盟団体の支援		
事業の目的	広域的な「会津西部総合演芸大会」や「会津西部巡回美術展」等への参加も促しながら、団体が積極的に活動できるよう支援する。		
事業の計画、内容	☐ 加盟団体へ補助金を交付して活動の支援を行う。 ☐ 会津西部総合演芸大会の開催と協会加盟団体への出演支援を行う。		
事業の対象者	昭和村文化協会加盟団体		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	330 千円	330 千円	昭和村文化協会補助金
実績・成果 (数値等)	◎ 昭和村文化協会への支援 加盟団体は10団体で、各団体へ活動の支援として補助金を交付し、それぞれの団体活動が行われた。 高齢化などで休会や解散になる団体が出てきているなど、新規加盟団体の確保が課題となっているが、昨年は新規加盟団体が1団体あった。 ◎ 第20回会津西部総合演芸大会 11月30日に昭和村公民館を会場に、昭和村、柳津町、三島町、金山町の演芸団体が参加して開催した。昭和村文化協会加盟団体からは1団体が出演し、日頃の成果を発表することができた。		
事業の (自己) 評価	必要性(住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。)		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性(施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性(最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。)		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
事業の方向性	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A (十分成果が上がっている)		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.2-⑤

基本計画名	2 社会教育		
重点施策名	⑤ 村民の読書の機会の普及推進		
事業の目的	村民が読書に親しみ、書物を通して多様な学びができるよう、図書室の蔵書の充実を図り、併せて電子図書館サービスを充実させながら、読書の普及と推進に努める。		
事業の計画、内容	☐ 公民館図書室は、話題の図書や利用者からの声を参考に蔵書の購入を行う。 ☐ 県立図書館移動図書館あづま号からの貸し出しを活用して公民館図書室の充実を図る。 ☐ 電子図書館は昭和村電子図書館蔵書計画（令和6～10年度）に基づき蔵書を充実させ、村民が読書に親しむ環境の向上を図る。		
事業の対象者	全村民（一部村内在勤者）		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	2,046 千円	1,524 千円	公民館図書購入費、電子図書館導入費、図書館協会負担金
実績・成果 (数値等)	☒ 公民館図書室 - 貸出冊数：延べ568冊／利用者数：延べ159人 - 利用者の声を反映した選書を心がけて新しい図書を40冊購入した。 ☒ 昭和村電子図書館 - 利用登録者数：229人／貸出冊数：延べ843冊 - 蔵書数：13,623冊 - 毎月、新刊から話題性のあるもの、利用者ニーズのあるもの、社会教育や学校教育で活用できる図書を選書して、村公式LINE等で新入荷の周知を図った。 - 複数自治体での共同運用を目指し周知を行っているが、成果はまだ表れていない。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
事業の方向性	達成できている(5) ☒ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	B (成果が上がっている)		
事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 継続実施する	☐ 改善見直しを検討する
	☐ 休止、廃止を検討する		

教育行政評価委員の意見、助言	引き続き利用率向上に努めてください。
----------------	--------------------

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.3-①

基本計画名	3 生涯スポーツ		
重点施策名	① 村民のスポーツ参加を促す		
事業の目的	スポーツ推進委員と協力し、昭和村総合運動会をはじめとする各種スポーツ大会や、福島県地域スポーツ大会、市町村対抗野球大会、市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会等への村民の参加を促すとともに、日頃からスポーツに親しむ機会を創出する。		
事業の計画、内容	○ スポーツ推進委員が中心になり、村民のスポーツ振興をはかる。 ○ 村民の健康増進と親睦を図るための各種大会を体育団体と連携し開催する。 ・ 昭和村総合運動会 ・ 昭和村民球技大会 ○ 県内で行われるスポーツ大会への参加を促進する。 ・ 福島県地域スポーツ大会 ・ 福島県市町村対抗軟式野球大会 ・ 市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	444 千円	692 千円	総合運動会・地域スポーツ大会費用 ふくしま駅伝大会負担金、選手消耗品
実績・成果 (数値等)	◎ 昭和村総合運動会は雨天中止となり、保育所・小学校の部のみ開催された。 ◎ 昭和村民球技大会は日程の確保が困難となり開催できなかった。 ◎ 福島県地域スポーツ大会は、家庭バレーボールの種目に出場したが、壮年ソフトボールの種目は、参加できなかった。年々、選手確保が難しくなっていることが課題である。 ◎ 福島県市町村対抗軟式野球大会は選手が集まらず棄権になった。 ◎ ふくしま駅伝には、本村は希望ふくしまチーム（7町村合同チーム）に参画し、本村からは1人（村出身大学生）が出場し、村の部区間賞を獲得し、チームの躍進に貢献した。後継者の育成が課題である。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	十分寄与している(5) ☒ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☒ 達成できていない(1)		
	C （ 改善の余地が多い ）		
事業の方向性	さらに重点化する	継続実施する	☒ 改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

競技人口減少対策を検討してください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.3-②

基本計画名	3 生涯スポーツ		
重点施策名	② 昭和村運動広場の管理・運営と利用促進		
事業の目的	村営の運動施設である昭和村運動広場の安全確保に努め、適切な管理運営と村民の利用促進を図る。		
事業の計画、内容	☐ 村民が快適かつ安全に使用できるよう、草刈り及び屋外トイレ2棟と健康増進施設（体育館）の清掃それぞれの業務を委託する。 ☐ 施設の利用申し込みを紙ベースからインターネットで行えるよう、システムを構築する。		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	685 千円	296 千円	施設清掃草刈業務委託料など
実績・成果 (数値等)	☒ 施設の利用者数は延べ1,323人。前年度比362人増加。 主な利用目的はグラウンドゴルフ、卓球、筋力トレーニング。 ☒ 草刈り業務を3人に、清掃業務は1人に委託し、利用環境を整備し利用者の事故、苦情等はなかった。また、豪雪による施設被害も発生しなかった。 その他、老朽化した設備の修繕を行った。 ☐ 使用を廃止したナイター照明塔8塔が残ったままで、器具落下の恐れがあるため、次年度解体の検討を進めなければならない。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与している(5) ☒ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☐ 十分できている(5) ☒ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
事業の方向性	☐ 達成できている(5) ☒ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	C (改善の余地が多い)		
事業の方向性	さらに重点化する	継続実施する	☒ 改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

引き続き維持管理に努めてください。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.4-①

基本計画名	4 歴史・文化		
重点施策名	① 昭和村文化財保護審議委員会の活動の充実		
事業の目的	村指定文化財の巡視や点検の他、新たな指定に関する検討及び村内の文化財や遺跡等の調査と保護を行う。		
事業の計画、内容	○ 旧名主の佐々木家住宅の調査について 旧名主の佐々木家住宅および佐々木家由来の絵師佐々木松タの作品について、文化財的価値の調査を福島県立博物館の学芸員に依頼し、歴史的価値の有無についての指導とアドバイスを受けることとする。 ○ 喰丸小の国登録有形文化財申請に向けた準備 文化庁の調査官よりアドバイスいただいた喰丸小について、国登録有形文化財への申請に向け準備を行う。		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	53 千円	220 千円	委員報償費、文化財申請資料作成費など
実績・成果 (数値等)	◎ 旧名主の佐々木家住宅および佐々木松タ作品について、県立博物館に調査を依頼し、次のような指導、アドバイスを受けた。 ・ 佐々木家住宅の文化財的価値を所見することは困難である。また、佐々木松タ作品については、美術工芸品としての評価は得られないとのこと。 そのため、佐々木家住宅は、文化財的価値の算定が難しく、保存する場合、多額の費用負担が発生するため、文化財候補としての検討を終了することとした。 ◎ 文化財調査官のアドバイスから「喰丸小」を国登録有形文化財建造物に登録することを決定し、今年度は申請に向けた準備を行った。次年度、国登録有形文化財への申請を行う。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.4-②

基本計画名	4 歴史・文化		
重点施策名	② 駒止湿原の保護と活用		
事業の目的	国指定天然記念物「駒止湿原」は、南会津町及び駒止湿原保護協議会並びに駒止湿原案内の会と連携し、管理と整備を行いながら保護と活用を図る。		
事業の計画、内容	○ 盗掘や踏み荒らし防止、散策マナー啓発、獣害被害対策のための監視活動と保護啓発活動の実施及び入山者の自然環境保護の意識向上を図る。 ○ 湿原内に侵入した外来植物を防除する。 ○ ニホンジカとイノシシの侵入及び湿原植物への被害を抑えるため、ワイヤーメッシュ柵と防鹿柵を設置するとともに、湿原内に赤外線センサーカメラを設置し、生息密度及び進入路などのモニタリング調査を行う。 ○ 木道の修繕や補修を行い、入山者の安全と湿原の保護を図る。 ○ 駒止湿原案内人養成講習会を開催する。		
事業の対象者	全村民及び隣接する地域の住民など		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	1,700 千円	1,700 千円	駒止湿原保護協議会負担金
実績・成果 (数値等)	◎ 5月24日の開山から10月31日の閉山の間、駒止湿原案内の会に委託し、161日間、毎日監視業務を行った。特に事件などは発生しなかった。 ◎ 外来植物の防除、除去を南会津町の湿原を守る会の協力で6月に実施した。 ◎ 木道の修理と修繕を要する箇所の把握を行った。 ◎ ニホンジカ用の防鹿柵を南会津町の湿原を守る会に委託し、開山期間中設置し見回りや点検を定期的に実施した。 ◎ イノシシの食害と掘り起こし対策として、開山期間中はワイヤーメッシュ柵を設置し被害軽減を図った。 ◎ 赤外線センサーカメラ19台を設置し、ニホンジカ、イノシシの生息数推定調査を行ったところ、シカの密度は減少し、イノシシは撮影されなかった。 ◎ 駒止湿原案内人養成講習会を6回開催。受講者10人（うち昭和村3人）次年度も継続して開催し、人材の育成に努めた。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	A （十分成果が上がっている）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.4-③

基本計画名	4 歴史・文化		
重点施策名	③ 矢ノ原湿原の調査や保護		
事業の目的	福島大学等の動植物及び生態系を研究している専門家と連携し、村天然記念物で県自然環境保全地域「矢ノ原湿原」の調査や保護を行う。		
事業の計画、内容	☐ 生涯学習講座の一環として、矢ノ原湿原勉強会を開催する。 ☐ 湿原内の外来植物の駆除を実施する。 ☐ 月に2回、湿原内の保護と監視のため監視活動を行う。		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	97 千円	57 千円	保護監視業務委託料、貸付料
実績・成果 (数値等)	◎ 福島大学教授の黒沢氏と福島県植物研究会の二瓶氏を講師に矢ノ原湿原勉強会を計2回開催。延べ20人の参加があり、植物とその保護について理解を深めることができた。 ◎ 福島大学黒沢教授や福島県植物研究会の二瓶氏の協力で、6月から10月まで延べ2日間、外来植物の観賞用スイレン駆除を実施した。 ◎ 保護監視業務に1名を委託し、4月から11月まで月2回実施した。盗採などの事案は確認されなかったが、秋からの熊出没増に伴い、遊歩道を10月より閉鎖した。その他、確認された破損した木道の修繕を実施した。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
	20		
	A （ 十分成果が上がっている ）		
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.4-④

基本計画名	4 歴史・文化		
重点施策名	④ 民具の整理・保存及び活用の検討		
事業の目的	大学等と連携し、昭和村小野川生涯学習センターに保管してある民具の整理・保存及び活用を検討する。		
事業の計画、内容	○ 村民などから受け入れた民具の整理作業を今年度も継続するとともに、整理済みの民具の活用として、昭和村民文化祭で展示を行う。 ○ 只見川電源流域振興協議会事業の「奥会津デジタルアーカイブ」に掲載する民具のアーカイブ化を開始する。 ※ デジタルアーカイブ：民具の情報を長期保存することを目的としてデジタル化すること。		
事業の対象者	全村民		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	863 千円	731 千円	民具整理作業委託料、消耗品
実績・成果 (数値等)	◎ 事務補助員3人に整理作業を委託し、作業は順調に進捗している。民具寄贈の申し出も減少傾向である。また、収蔵場所が手狭になったことから、重複する民具の寄贈申し出はお断りした。 ◎ 昭和村民文化祭で「昔の履き物展」を開催し、多くの村民に民具収蔵事業を周知することができた。 ◎ 奥会津デジタルアーカイブ用のデータ化は、約2,200点のうち7割が完了した。 ◎ 現在の収蔵場所の小野川生涯学習センターは手狭になったことから、不要な収蔵物の廃棄も行わなければならない。さらに、収蔵環境が悪いため展示と活用も可能な新たな施設の検討も進めなければならない。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
A （ 十分成果が上がっている ）			
事業の方向性	さらに重点化する	継続実施する	☒ 改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.5-①

基本計画名	5 国際理解		
重点施策名	① ALT(外国語指導助手)の配置		
事業の目的	ALT(外国語指導助手)を配置し、子どもたちが確かな英語力を習得し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。		
事業の計画、内容	○ 昭和中学校と昭和小学校の英語科の支援を行う。		
事業の対象者	昭和小学校と昭和中学校の児童生徒		
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	5,085 千円	4,244 千円	ALT人件費、旅費、消耗品費、自動車共済、JET負担金など
実績・成果 (数値等)	○ 昨年度から引き続きアレクサンドラ氏を雇用して児童生徒の学習支援にあたった。 ○ 実用英語技能検定では昭和中学校の全校生徒11名中、3級2人、4級2人、5級2人が合格するなど、ALT配置の成果が現れている。		
事業の (自己) 評価	必要性(住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。)		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性(施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性(最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。)		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
事業の方向性	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
事業の方向性	A (十分成果が上がっている)		
	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価
委員の意見、
助言

特になし。

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.5-②

基本計画名	5 国際理解		
重点施策名	② ブリティッシュヒルズ英語研修の実施		
事業の目的	外国語によるコミュニケーション能力を育成するため、児童生徒を語学研修施設へ派遣する。		
事業の計画、内容	日帰りあるいは一泊程度の語学研修では、英語によるコミュニケーション能力の育成に効果があるのか疑問であり、また、学校の教育課程を編成する上で日程の確保も困難なことから、令和5年度限りで事業を廃止した。		
事業の対象者			
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	0 千円	0 千円	
実績・成果 (数値等)	事業は行わなかった。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	十分必要である(5) おおむね必要である(3) あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	十分寄与している(5) おおむね寄与している(3) あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	十分できている(5) おおむねできている(3) できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	達成できている(5) おおむね達成できている(3) 達成できていない(1)		
	#N/A		
事業の方向性	さらに重点化する	継続実施する	改善見直しを検討する
	■ 休止、廃止を検討する (令和5年度で事業を廃止した)		

教育行政評価委員の意見、助言	特になし
----------------	------

令和7年度重点施策の事業評価シート

No.5-③

基本計画名	5 国際理解		
重点施策名	③ 生涯学習「英会話教室」の開催		
事業の目的	ALT（外国語指導助手）を講師として大人の英会話教室を開催し、英会話の学習を通じて多様性と互いを尊重する機会を創出する。		
事業の計画、内容	生涯学習講座の一つとして、ALTと社会教育指導員が内容を協議し、教室を年間10回程度開催する。		
事業の対象者			
事業費	令和7年度決算額	前年度決算額	事業費の主な内容
	5,085 千円	4,244 千円	(5)-①の再掲
実績・成果 (数値等)	教室は5月から翌年3月まで毎月1回開催し、延べ72名が受講した。 ALTの親しみやすい指導内容は受講生から好評で、村民の英語力向上と国際理解が深まる機会となっている。		
事業の (自己) 評価	必要性（住民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業を行う必要があるかどうか。）		
	☒ 十分必要である(5) ☐ おおむね必要である(3) ☐ あまり必要でない(1)		
	有効性（施策や運営方針等、村振興計画の目的実現にどの程度寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与している(5) ☐ おおむね寄与している(3) ☐ あまり寄与していない(1)		
	経済・効率性（最小の経費で最大の効果が発揮されているか。事務作業には無駄がないか。）		
	☒ 十分できている(5) ☐ おおむねできている(3) ☐ できていない(1)		
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている(5) ☐ おおむね達成できている(3) ☐ 達成できていない(1)		
A （ 十分成果が上がっている ）			
事業の方向性	さらに重点化する	☒ 継続実施する	改善見直しを検討する
	休止、廃止を検討する		

教育行政評価委員の意見、助言	特になし
----------------	------

